

《3つの指標が示す弾力性のある財政構造》

安定しています。白石市の財政!

指標でみる財政の健全性

市税や地方交付税などに収入が見込め、自由に使えるお金がどの程度、人件費や交際費など簡単に減らすことができるかを示すものです。皆さんの家庭に例えれば、毎月もらえる給料が、食費や家のローンなど必ず

引き続き県内10市中1位

◆平成13年度経常収支比率◆

74.9% (県内10市中1位)

☆県内10市平均：85.2%

●経常収支比率の状況 (単位:%)

9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
74.2	75.5	73.0	74.5	74.9

① 経常収支比率

白石市の財政は引き続き健全
財政が健全であるためには、財政構造が弾力的でなければなりません。社会経済の変化やいろいろな行政ニーズに適切に対処するためには、より多くの収入を確保し迅速に支出を行うなど、臨機応変に対応できる柔軟性が必要です。財政状況をみる尺度として、経常収支比率、公債費比率、起債制限比率の3つの指標があります。この3つの指標のうち、経常収支比率が75%未満かつ起債制限比率が10%未満であれば、より優れた健全財政が認められ、市債の借入手続きが簡単(地方債許可制度の弾力的運用)になり、今年度に引き続き来年度も県内10市中、白石市のみが該当する見込みです。

13年度も良好

◆平成13年度公債費比率◆

13.1% (県内10市中3位)

☆県内10市平均：15.4%

●公債費比率の状況 (単位:%)

9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
14.3	14.4	13.2	13.5	13.1

② 公債費比率

市税や地方交付税など自由に使えるお金の程度、

支払わなければならない生活費にどれほど使われているかをみただけでは、この率が高いほど臨時的な支出にお金を出す余裕もなく、財政に弾力性がないということになります。

全国トップクラス

◆平成13年度起債制限比率◆

1.0% (県内10市中1位)

☆県内10市平均：10.3%

●起債制限比率の状況 (単位:%)

9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
7.9	6.4	4.6	2.8	1.0

③ 起債制限比率

公債費から国が地方交付税という形で負担してくれ

必ず支払わなければならない公債費(借入金の返済金)に回されているかをみただけでは、この率が高いほど借入金の返済が財政を圧迫し、健全性を保てなくなります。

※このように、白石市は財政指標の面からみても健全で安定した財政運営を維持しているうえ、平成13年度末の市債(借入金)残高が前年度末に比べ約6億円減り、逆に積立金(市の貯金)は前年度に比べ約2億円増えるなど、監査委員の決算審査意見書においても引き続きお墨付きをいただいています。

た分を除いたものに、市税や地方交付税など自由に使えるお金がどの程度回されたのかをみただけでは、市債(借入金)の許可制限の基準となります。この率が20%以上になると新たな借入れが制限されます。